

# **XI 進行管理(点検評価) シート**

【方向性】 Iー生きる力を育む学校教育の推進  
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(1)確かな学力の育成			担当課	担当課評価
細 施策	①学力向上対策の推進			教育指導課	B
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力向上検討委員会(平成26年度より学力向上研究委員会)において、本市の児童生徒の学力の現状と課題を把握しながら新学習指導要領への対応を図ります。</li> <li>・児童生徒の家庭学習の習慣化や学力向上への具体的な取組を指導し、学力向上を推進していきます。</li> </ul>				
平成27年度実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・川越市小・中学生学力向上プランの趣旨を踏まえ、市立学校の校長、教員で構成した小学校部会、中学校部会、学級経営部会を組織し、年間を通して学力向上研究委員会を開催しました。</li> <li>・本市独自の川越市児童生徒学習・生活状況調査を実施し、児童生徒の実態の把握に努めました。</li> <li>・各種学力調査の分析結果から指導の手立てを示し、教職員向けの教育情報誌を発行するとともに、「授業づくり」研修会を実施しました。</li> </ul>				
成果実績	項目名(単位)	H25	H26	H27	
	授業以外で1時間以上勉強する児童の割合(小学校5年生)(%)	41	42	39	
	授業以外で1時間以上勉強する生徒の割合(中学校2年生)(%)	55	51	53	
評価の理由	<p>学力調査の分析結果をもとに各教科の研究部会が検討した教育情報や具体的な指導方法等を各学校向けに提供することで、日々の授業の充実が図られており、おおむね順調に進ちよくしています。</p>				
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育委員会と各小・中学校が目標を共有し、児童生徒一人ひとりの学力向上に向けた計画的・継続的な取組を実施してまいります。</li> <li>・保護者との連携を図り、児童生徒の学びの基盤となる家庭学習の習慣化を推進していきます。</li> </ul>				

施策の柱	(1)確かな学力の育成			担当課	担当課評価
細 施策	②市独自の少人数学級編制の推進 (平成25年度より、各学校の課題に応じた学校支援事業の推進として実施)			学校管理課	B
施策の内容	<p>積極的な生徒指導を推進し、子どもたちの心の教育・学力向上・いじめの未然防止・少人数学級編制等、各学校におけるさまざまな課題を解決するため、市費による教員(オールマイティーチャー)を配置します。(オールマイティーチャーの配置は平成25年度から)</p>				
平成27年度実績	<p>校長の創意を生かした企画書に基づき、各学校の課題に応じて、市内の小学校3校に3人(うち1人は理科)、中学校10校に11人(国語1人、社会1人、理科5人、保健体育2人、美術1人、英語1人)の市費による教員を配置しました。これにより、子どもたち一人ひとりに応じたきめ細かな教育活動を推進することができました。</p>				
成果実績	項目名(単位)	H25	H26	H27	
	臨時講師配置状況(人)	11	13	14	
評価の理由	<p>各学校の課題に応じた活用により、きめ細かな指導ができました。配置校では教員が1人増員されたことにより、生徒指導主任や教育相談主任に機動力が生まれ、生徒指導体制の充実が図れました。これにより、いじめの発生件数の減少や未然防止、授業規律が図られたことによる学力向上等の成果を得たこと等、おおむね順調に進ちよくしています。</p>				
改善の方策等	<p>配置した学校での効果を検証しながら、必要とする学校に対し、各課題に応じて教員を配置し、生徒指導体制の充実や学力向上に向け、子どもたち一人ひとりに応じたきめ細かな教育活動を推進していきます。</p>				

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進

【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱		(1) 確かな学力の育成			
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
施策評価	①学力向上対策の推進	教育指導課	B	B	B
	②市独自の少人数学級編制の推進 (平成25年度より、各学校の課題に応じた学校支援事業の推進として実施)	学校管理課	B		
学識経験者等 意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学習の習慣化については、子どもが家庭で学習したことに対して、先生からの評価などのフィードバックをしていただきたい。</li> <li>・オールマイティーチャーの配置については、要望がある学校には各学校1人は配置できるように充実を図っていただきたい。</li> </ul>				

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進  
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(2)教育に関する3つの達成目標の推進			担当課	担当課評価
細 施 策	①学力（読む・書く・計算）向上の推進			教育指導課	B
施策の内容	学習指導要領に基づき、読む・書く・計算の観点を中心に、子どもたちの学力の土台づくりを進め、小・中学校の連携を踏まえ家庭の協力を得た学力向上の推進を図ります。				
平成27年度実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力向上研修会を実施し、結果分析の仕方や研究資料の活用方法等について研修を進め、基礎的・基本的な学力内容を定着させました。</li> <li>・教育情報誌(小江戸川越寺子屋タイムズ)を計画的に発行し、全小・中学校に配布することにより、教員の指導力向上を図りました。</li> </ul>				
成果実績	項目名(単位)	H25	H26	H27	
	小学校「読む・書く」、「計算」達成率90%以上の項目(各学年2項目×6学年)	12項目／12項目	—	—	
	中学校「読む・書く」、「計算」達成率90%以上の項目(各学年2項目×3学年)	4項目／6項目	—	—	
評価の理由	平成27年度の埼玉県学力・学習状況調査の結果から、県との比較では国語・算数(数学)の全体の平均正答率がすべて県を上回っており、おおむね順調に進ちよくしています。				
改善の方策等	川越市小・中学生学力向上プランを踏まえ、児童・生徒の思考力等の育成とのバランスを図りながら、基礎的・基本的な知識・技能を習得させる取組を進めてまいります。				

施策の柱	(2)教育に関する3つの達成目標の推進			担当課	担当課評価
細 施 策	②規律ある態度の育成			教育指導課	B
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小・中学校における基本的な生活習慣や学習習慣を身に付けさせます。</li> <li>・学校が家庭や地域と連携を密にし、思いやりや感謝の心、公共心、善悪を判断する力など、豊かな心を育みます。</li> </ul>				
平成27年度実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各小・中学校においては校種間の連携を通して、学習の仕方や生活のきまり等について9年間を見通した生活習慣、学習習慣の定着に向けた取組を進めています。</li> <li>・多くの学校で「朝のあいさつ運動」を実施し、自校でのぼりを作る等の取組を進めています。</li> <li>・学力向上研究委員会学級経営部会で、規律ある態度を育成する手立てについて検討し、その情報を各校に伝えることで教職員の指導力の向上を図りました。</li> </ul>				
成果実績	項目名(単位)	H25	H26	H27	
	小学校・規律ある態度達成率80%以上の項目(各学年12項目×6学年)	69項目／72項目	67項目／72項目	69項目／72項目	
	中学校・規律ある態度達成率80%以上の項目(各学年12項目×3学年)	34項目／36項目	34項目／36項目	34項目／36項目	
評価の理由	児童生徒質問紙調査の結果、ほとんどの項目で達成率が80%以上となっており、おおむね順調に進ちよくしています。				
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校指導訪問等の機会をとらえ、各校の実態に即した取組を支援してまいります。</li> <li>・学級経営部会を計画的に実施し、具体策を検討してまいります。</li> </ul>				

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進  
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(2)教育に関する3つの達成目標の推進			担当課	担当課評価
細 施 策	③体力向上の推進			教育指導課	B
施策の内容	豊かな人間性や生きる力の重要な要素である基礎的な体力を向上させるために、家庭や地域との連携を図りながら、児童生徒の発達段階に応じた効果的な体力向上の取組を充実します。				
平成27年度実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成27年度川越市児童生徒体力向上推進委員会で、体力向上全体研修会や授業研究会を実施し、体力向上広報紙「じゃんぷ」「川越市小・中学校新体力テスト一覧」、研究紀要「体力向上をめざして」を発行しました。</li> <li>小中連携した効果的な授業の研究を進め、研究授業を通して効果の検証を図りました。</li> <li>体力課題解決シートを活用し、体育授業の中に帯状に補強運動を取り入れた授業実践を広めることができました。</li> </ul>				
成果実績	項目名(単位)	H25	H26	H27	
	前年度より結果のよい種目(小学校)	上体起こし(男女) シャトルラン(男女)	上体起こし(男子) 長座体前屈(女子)	長座体前屈(男女) 上体起こし(女子)	
	前年度より結果のよい種目(中学校)	長座体前屈(女子) ボール投げ(女子)	握力(男女) 立ち幅跳び(男女)	反復横跳び(男女) 立ち幅とび(男子)	
評価の理由	運動時間の確保と運動する楽しさを重視した体育授業や朝マラソン等体育的活動が各学校の工夫のもとに展開されており、おおむね順調に進ちよくしています。				
改善の方策等	業前・業間運動や体づくり運動の実施、ラジオ体操の推進、家庭や地域で日頃からスポーツに親しむ習慣づくり等、体力向上の効果的な取組を広く示し、各学校の工夫を凝らした取組を支援してまいります。				

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進  
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(2)教育に関する3つの達成目標の推進				
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
	①学力(読む・書く・計算)向上の推進	教育指導課	B	B	
	②規律ある態度の育成	教育指導課	B		
③体力向上の推進	教育指導課	B			
学識経験者等	<ul style="list-style-type: none"> <li>規律ある態度の育成については、子どもたちにやらせるのではなく、考えさせる取組を進めていただきたい。</li> <li>体力向上の推進については、放課後に外で体を動かす場所の配慮をするなど、学校の中でも外でも運動をすることが習慣化するような取組を進めていただきたい。</li> </ul>				B

【方向性】 Iー生きる力を育む学校教育の推進  
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(3)校種間連携の推進			担当課	担当課評価
細 施策	①小学校・中学校連携の推進			学校管理課	B
施策の内容	<p>・市内全小中学校を、9ブロックに分け、それぞれのブロックごとに小中学校間の連携を一層進めてまいります。</p> <p>・校長のリーダーシップのもと、教育委員会からも指導主事を配置するなどサポートをしながら、課題を明確にして各学校で行ってきた連携の取組の見直しや改善を図り、学校教育の一層の充実・活性化を図ります。</p>				
平成27年度実績	<p>連携事業として、教員間では授業の参観及び研究協議等が行われ、教育課程や特別支援教育などの合同研修会が実施されました。児童生徒間では、小6の部活動体験や1日体験入学が中学校で実施され、音楽会や運動会等での交流も図られました。</p>				
成果実績	項目名(単位)	H25	H26	H27	
	中学1年生不登校者数(人)	35	47	53	
	中学1年生全体に占める不登校者数の割合(%)	1.29	1.67	1.89	
評価の理由	<p>中学1年生の不登校者数は、徐々に増加傾向にあります。増加の割合は抑えられています。また、合同研修会、授業公開・研究協議、連絡会・情報交換会などが、成果としてあげられ、各校が研修を通して教職員の指導力向上を図り、小中の系統を意図した学習指導、生徒指導等に取り組んでおり、おおむね順調に進ちよくしています。</p>				
改善の方策等	<p>多くの学校で課題ととらえられているのは、日程調整、時間と場の工夫です。今後、児童生徒間の新しい交流や小中9年間の系統性を意識した授業、指導計画づくりを含めた連携事業の改善・深化に努めます。</p>				

施策の柱	(3)校種間連携の推進			担当課	担当課評価
細 施策	②中学校・市立川越高等学校連携の推進			学校管理課	B
施策の内容	<p>・中学校と市立高等学校が一層連携し、双方の円滑な交流や相互理解、授業改善や教員の指導力向上に向けた取組を図ります。</p> <p>・「第二次市立川越高等学校将来構想懇話会」の報告結果を基に、中高一貫教育について調査研究を進めます。</p>				
平成27年度実績	<p>市立川越高等学校と近隣3中学校の平成27年度研究委嘱校間では、授業や体育祭などの学校行事の参観、高校教員による中学校での出前授業や進路に関する説明、中学生による上級学校訪問や生徒相互の部活動交流等を実施しました。中学生による高校の体験授業では、学年全体で参加することも行われ、連携が深められました。</p>				
成果実績	項目名(単位)	H25	H26	H27	
	教員・保護者間の交流活動件数(件)	15	19	28	
	生徒間の交流件数(件)	17	11	12	
評価の理由	<p>出前授業や体験授業、部活動の相互交流や合同練習などが積極的に取り込まれ、教員の意識も高くなり、おおむね順調に進ちよくしています。今後、より多くの市内各中学校との連携に拡大することが課題となっています。</p>				
改善の方策等	<p>平成27年度、より多くの中学校との連携が実施できるようブロックの見直しを行いました。系統的な学習指導・生徒指導・進路指導に生かす校種間連携を目指し、さまざまな取組を実施してまいります。</p>				

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進  
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(3)校種間連携の推進			担当課	担当課評価
細 施 策	③幼稚園・保育園・小学校連携の推進			教育指導課	A
施策の内容	幼保小連絡懇談会を通して、幼稚園、保育園、小学校のそれぞれの役割の理解を深めるとともに、課題解決に向けた情報を共有するとともによりよい連携のあり方について話し合い、幼児期の教育と小学校教育との円滑な接続を図ります。				
平成27年度実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究テーマを「子どもの発達と学びの連続性をほぐくむ幼保小の連携」とし、「他者との関係を育む活動」に視点をあてて実践事例集を作成しました。</li> <li>・幼保小連絡懇談会を6会場で実施し、授業公開や実践事例集に基づいた協議を行いました。</li> <li>・各会場での記録を冊子にまとめ、関係者に配布するとともに、公民館等に閲覧用として配布しました。</li> </ul>				
成果実績	項目名(単位)	H25	H26	H27	
	参加園・校数	104	105	103	
	参加人数(人)	216	214	215	
評価の理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼保小連絡懇談会に103の園・校が参加し、年間を通してテーマに基づき連携に取り組みました。</li> <li>・研究の視点を他者との関係を育む活動に絞ることで、幼保小の課題解決に向けた情報共有が可能となり、順調に進ちよくしています。</li> </ul>				
改善の方策等	幼保小連絡懇談会の成果を各幼稚園・保育園・小学校へ周知し、今後も参加園・参加者の拡充を図り、幼保小の円滑な連携を図ります。				

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進  
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(3)校種間連携の推進				
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
	①小学校・中学校連携の推進	学校管理課	B	B	
	②中学校・市立川越高等学校連携の推進	学校管理課	B		
③幼稚園・保育園・小学校連携の推進	教育指導課	A			
学識経験者等 意見	幼稚園・保育園・小学校連携の推進については、幼稚園や保育園から小学校に進むときに、保護者にとって大きな段差を感じるのので、保護者に対する取組についても検討していただきたい。				

【方向性】 Iー生きる力を育む学校教育の推進  
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(4)生徒指導の充実						担当課	担当課評価
細 施 策	①道徳教育の充実						教育指導課	B
施策の内容	豊かな心を育む道徳教育の一層の充実と道徳的実践力の向上を、学校の教育活動全体で推進します。							
平成27年度実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳教育推進教師研修会を年2回実施しました。</li> <li>・学校訪問で公開授業を実施し、授業や分科会の協議を通して指導力の向上を図りました。</li> </ul>							
成果実績	項目名(単位)	H25		H26		H27		
	教育に関する3つの達成目標・規律ある態度「整理整頓・あいさつ・やさしい言葉づかい・集団の場での態度・清掃美化活動」達成率80%以上の項目(各学年5項目)	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	
		29/30項目	15/15項目	29/30項目	15/15項目	30/30項目	15/15項目	
評価の理由	道徳教育推進教師研修会や学校指導訪問等を通して、指導力の向上を図ることができ、おおむね順調に進ちよくしています。							
改善の方策等	道徳教育推進教師を中心とした校内組織を整備するとともに、家庭・地域との連携した取組や「私たちの道徳」や埼玉県資料を積極的に活用し、道徳教育の充実を推進します。							

施策の柱	(4)生徒指導の充実						担当課	担当課評価
細 施 策	②いじめ・不登校対策の推進						教育指導課	B
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校1年生で急増するいじめ・不登校問題の対応については、小中連携を中心とした校種間連携の中で取組を推進します。</li> <li>・いじめ・不登校対策検討委員会を通して、具体的な取組を推進します。</li> </ul>							
平成27年度実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ未然防止対策については、各学校の相談体制、校内いじめ対策委員会、アンケート実施、児童生徒の活動などの進ちよく状況を定期的に確認して取り組みました。</li> <li>・小中連携を中心とした校種間連携の中で定期的に学校訪問を実施することができました。</li> <li>・いじめ・不登校対策検討委員会を組織し、いじめや不登校問題の防止に向けたマニュアルやリーフレットを作成し、市内全教員へ配布しました。</li> <li>・ネットパトロール及びいじめ相談電子窓口を通年で実施し、23件の対応を行いました。</li> </ul>							
指標及び説明	【指標】 中学校の不登校出現率			【説明】 市立全中学校の生徒数のうち不登校生徒数の割合				
指標の推移	単位	現在値(H21)	実績値					目標値(H27)
			H22	H23	H24	H25	H26	H27
	%	3.33	2.63	2.59	2.17	1.97	2.18	2.81
評価の理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「川越市いじめ問題対策委員会」を年間3回実施し、「川越市いじめの防止等のための基本的な方針」についてPDCAサイクルによる見直しを行いました。</li> <li>・市の方針を踏まえ、市立全小・中学校で「学校いじめ防止基本方針」の見直しを進め、いじめ問題への早期対応と、いじめの未然防止に向けた取組の充実を図りました。</li> </ul>							
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ問題の早期発見に向け、定期的に児童生徒アンケート及び保護者アンケートを実施し、いじめの早期発見・早期対応に万全を期してまいります。</li> <li>・川越市児童生徒連絡協議会と連携し、各学校の児童生徒が主体となったいじめ撲滅に向けた取組を推進してまいります。</li> </ul>							



【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進  
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(4)生徒指導の充実							担当課	担当課評価
細 施 策	③教育相談の充実							教育センター分室 (リベール)	A
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内全中学校に配置している、さわやか相談員の活用を図り、不安や悩みを持つ生徒が相談しやすい教育相談体制を推進します。</li> <li>・スクールカウンセラーや教育センター分室(リベール)の臨床心理士など、専門的知識を有する人材を活用し、小学校の児童、保護者に対する教育相談体制の充実を図ります。</li> </ul>								
平成27年度実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校に配置のさわやか相談員が、小・中学生や保護者等延べ12,111人の相談に対応しました。</li> <li>・週1回から2週間に1回の割合で県から配置されているスクールカウンセラーが、生徒やその保護者への面接、教職員への助言など、併せて7,358回の相談を行いました。</li> <li>・本年度からスクールソーシャルワーカーを導入し福祉関連機関との連携を図っています。</li> </ul>								
指標及び説明	【指標】さわやか相談員がかかわりを持ち、解決した割合				【説明】市内全中学校に配置したさわやか相談員が受けた相談件数のうち解決した(相談が終了した)件数の割合				
指標の推移	単位	現在値(H21)	実績値					目標値(H27)	
			H22	H23	H24	H25	H26	H27	
	%	66.8	82.9	84.0	84.2	86.6	87.3	85.0	75.0
評価の理由	さわやか相談員が相談に応じ、解決した割合は85%と目標値を上回っています。また、平成27年度からスクールソーシャルワーカーを導入し、福祉関連機関との連携を図っています。								
改善の方策等	今後は、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの活用を一層図り、学校、家庭、および福祉関連機関との連携を図るとともに、特に不登校や不登校傾向にある児童生徒、および保護者への支援の充実を図っていきます。								

施策の柱	(4)生徒指導の充実							担当課	担当課評価
細 施 策	④関係機関との連携事業							教育指導課	A
施策の内容	課題解決のために、教育センター分室(リベール)、庁内こども安全課、児童相談所、警察署等の関係機関と連携し、情報交換や対応策を検討します。								
平成27年度実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育センターと「いじめ・不登校対策検討委員会」を合同で組織し、「チーム連携を基盤とした不登校対応」に関する資料や「重大事態対応マニュアル」を作成しました。</li> <li>・児童虐待の問題に対して、児童相談所やこども安全課(平成28年度よりこども家庭課)と情報を共有するなど連携して対応しました。</li> <li>・児童・生徒の問題行動等に対して、川越警察署との連携を深め、各学校への支援体制を整備しました。</li> <li>・スクールサポーターの配置を要請し、1校に配置されました。</li> <li>・学校・地域・警察関係者による「いじめ・非行防止ネットワーク」(旧サポートチーム)が9校(小学校1校、中学校8校)で組織されました。</li> </ul>								
成果実績	項目名(単位)	H25		H26		H27			
	サポートチームの編成数(校)	9		11		9			
評価の理由	児童生徒の諸問題等に対し、教育委員会が関係機関等との連携を積極的に行うことで円滑な対応が図られ、順調に進ちよくしています。								
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導上配慮を要する児童生徒について予め情報交換を行うなど、日常的に関係機関との連携を図ります。</li> <li>・生徒指導上の多様な課題への対応について、各学校の取組を取りまとめ、指導の手立てを広める等、迅速に問題解決が図れるようにします。</li> <li>・各学校の実情に応じ、今後も関係機関との連携をさらに進め、学校と一体となった取組を行います。</li> </ul>								

【方向性】 Iー生きる力を育む学校教育の推進  
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(4)生徒指導の充実			担当課	担当課評価
細 施 策	⑤いきいき登校サポートプランの推進			教育センター分室 (リベール)	A
施策の内容	市内小中学校における不登校問題の解消に向けて、大学生による不登校児童生徒支援事業の「いきいき登校サポートプラン」を更に推進し、学校、専門家、地域が連携し、一体となった取組を進めます。				
平成27年度実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成27年度は、20人のスチューデントサポーターが、延べ310回の活動を行いました。</li> <li>臨床心理士を週1日、年間45日、教育センター分室に配置し、特に配慮を要する難しいケースについてより専門的な対応を行いました。</li> <li>平成27年度より導入のスクールソーシャルワーカーが学校、家庭、福祉関連機関と連携し、64件のケースに対応しました。</li> </ul>				
成果実績	項目名(単位)	H25	H26	H27	
	活動した学生実人数(人)	19	20	20	
	活動回数(回)	320	342	310	
評価の理由	スチューデントサポーターの活動回数は300回を越えました。引きこもりなど難しいケースに対しても、対象児童生徒の状況に応じた活動を進め、何らかの形で学校復帰が図れた児童生徒の割合は78.3%となっています。				
改善の方策等	スチューデントサポーターの配置について、関係の大学と連携し、大学生への事前研修や活動中の学生への指導の充実を一層図るとともに、対応するケースによって、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、さらにリベールの教育相談との連携を深めていきます。				

【方向性】 Iー生きる力を育む学校教育の推進  
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(4) 生徒指導の充実				
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
	①道徳教育の充実	教育指導課	B	A	
	②いじめ・不登校対策の推進	教育指導課	B		
	③教育相談の充実	教育センター分室(リベール)	A		
④関係機関との連携事業	教育指導課	A			
⑤いきいき登校サポートプランの推進	教育センター分室(リベール)	A			
学識経験者等意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめ・不登校対策の推進について、SNSの利用に関するトラブルが増えていると思うが、ネットの利用に関するマナーについて、学校での取組をさらに充実させるとともに、保護者向けの対応を進めていただきたい。</li> <li>教育相談の充実について、スクールカウンセラーの配置は、身近な相談相手として子どもの心の支えになると思われるため、今後も強力に進めていただきたい。</li> </ul>				A

【方向性】 I 一生きる力を育む学校教育の推進  
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(5)進路指導・キャリア教育の充実			担当課	担当課評価
細 施 策	①地域・関係機関と連携した社会体験活動の充実			教育指導課	A
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒一人ひとりを大切にされた進路指導・キャリア教育の一層の充実に努めます。</li> <li>・中学校では、地域にある事業所や公共施設での体験活動を通して川越市中学生社会体験事業の充実を図ります。</li> </ul>				
平成27年度実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「進路指導・キャリア教育研修会」を実施しました。参加者が作成したレポートを基に、自校のキャリア教育の現状や課題について、グループ協議を行いました。</li> <li>・川越市中学生社会体験事業を全中学校で実施し、事後のアンケート調査を行いました。その結果を、その後の指導に活用しました。</li> <li>・関係団体との連携を図り、本事業の運営を円滑に進めることができました。</li> </ul>				
成果実績	項目名(単位)	H25	H26	H27	
	協力事業所数(箇所)	795	822	865	
評価の理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事後のアンケート調査によると、「働くことの大切さや意味を考える機会となったか」「仕事をするために協力する大切さが理解できたか」「社会のきまりを守る大切さを理解できたか」「働くことの厳しさ、大変さを知ることができたか」の項目で、98%以上の生徒が肯定的な回答を示し、順調に進ちよくしています。</li> <li>・事業所へのアンケートでは、「職員にも大変やりがいがありました」「今回初めて受けさせていただきましたが、体験事業に参加させていただけて良かったです」等の意見が寄せられ、地域の中で本事業が円滑に浸透している様子が見られます。</li> </ul>				
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会体験活動の事後指導を確実にし、体験を今後の生活に生かす視点を取り入れるようにしていきます。</li> <li>・受け入れ事業所側の要請に十分応えられるよう、日常における指導を重視します。</li> </ul>				

【方向性】 I 一生きる力を育む学校教育の推進  
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(5)進路指導・キャリア教育の充実				
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
	①地域・関係機関と連携した社会体験活動の充実	教育指導課	A	A	
学識経験者等 意見	社会体験活動は、自分の身近な人ではない大人と係わりとともに、仕事の大変さなどを直接体験することで今後の進路等を考えていくよききっかけとなるため、今後も進めていただきたい。				A

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進  
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(6)科学体験活動の推進			担当課	担当課評価
細 施 策	①科学わくわくラーニングプログラム事業の推進			教育指導課	A
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校6年生を対象に、小学生科学体験事業を実施し、講演会、実験実習、科学施設の見学や体験活動の取組を充実します。</li> <li>・理科実験助手派遣事業、小・中・大学連携理科ふれあい事業を充実させ推進します。</li> </ul>				
平成27年度実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学生科学体験事業として、市内小学校6年生78人を対象に、1日目に講演会、2日目に実験・実習、3日目に日本科学未来館で体験学習を行いました。</li> <li>・理科実験助手派遣事業により、小学校12校に理科実験助手を派遣しました。</li> <li>・小・中・大学連携理科ふれあい事業を小学校11校・中学校2校で実施しました。</li> </ul>				
成果実績	項目名(単位)	H25	H26	H27	
	理科実験助手派遣事業派遣数(校)	12(小:9 中:3)	16(小:10 中:6)	20(小:12 中:8)	
	小・中・大学連携理科ふれあい事業(校)	13(小:9 中:4)	16(小:14 中:2)	13(小:11 中:2)	
評価の理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・科学体験事業に参加した児童や小・中・大学連携理科ふれあい事業を実施した学校の児童生徒から、理科に対する興味・関心や知的な好奇心が高まったという感想が寄せられています。</li> <li>・計画的に理科実験助手の派遣人数を拡大することで、理科授業の工夫・改善や理科室の環境整備等が進められており、順調に進ちよくしています。</li> </ul>				
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・科学体験事業において、科学の講演会に係る講師や科学体験指導員による実験・実習指導の充実を図り、児童生徒の理科に関する知的な好奇心や探究心を深めるようにします。</li> <li>・小学校に理科実験助手を計画的に派遣し、市内小学校の実験準備を円滑にするとともに教員の指導技術を高められるようにします。</li> <li>・小・中・大学連携理科ふれあい事業において、大学との連携を積極的に進め、児童生徒の理科に関する興味・関心を広げるようにします。</li> </ul>				

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進  
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(6)科学体験活動の推進				
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
	①科学わくわくラーニングプログラム事業の推進	教育指導課	A	A	
学識経験者等 意見	小学生科学体験事業については、参加した児童だけではなく、参加しなかった児童も理科や科学に興味を持ったり、さらに関心が高まるきっかけとなるよう、体験事業参加後の学校へのフィードバックについても配慮していただきたい。				A

【方向性】 Iー生きる力を育む学校教育の推進  
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(7)地域に開かれた特色ある学校づくりの推進			担当課	担当課評価
細 施 策	①学校評議員制度の充実			学校管理課	B
施策の内容	学校は、学校評議員に学校の現状と課題について情報提供を行い、情報の共有化を図るとともに、保護者や地域住民から信頼される学校経営ができるよう学校評議員制度の充実を図ります。				
平成27年度実績	学校の現状と課題に即して、積極的な意見交換のもと、活発な話し合いによる学校評議員会議が実施されています。特に各学校の学校評価において、学校評議員が学校関係者評価の構成員である割合が大きく、開かれた学校づくりに寄与してると考えられます。				
成果実績	項目名(単位)	H25	H26	H27	
	学校評議員が学校関係者になっている学校	56/56	56/56	56/56	
	学校評価の公表率	56/56	56/56	56/56	
評価の理由	すべての市立学校で、ほとんどの学校評議員が学校関係者における評価者になっており、学校経営に関わる情報の共有化が図られています。学校は、保護者や地域住民等の意見の把握、反映だけでなく、学校運営の状況等を周知するなど、おおむね順調に進ちよくしています。今後、更に結果を公表する場や機会を増やしていく必要があります。				
改善の方策等	各学校で教育活動等について計画的に自己評価を行い、その結果を公表するとともに、多様な意見を幅広く広め、学校経営に生かすために積極的な情報提供を行っていきます。				

施策の柱	(7)地域に開かれた特色ある学校づくりの推進			担当課	担当課評価
細 施 策	②地域人材活用事業の充実			学校管理課	A
施策の内容	小・中・特別支援学校が、特色ある学校づくりを推進していくため、多様な体験活動が展開できるように関係団体や地域の方々と連携し、地域人材活用事業の一層の充実を図ります。				
平成27年度実績	市立小中学校53校が、トータルで391回、40団体と個人併せて604人の地域人材からそれぞれの学校において必要な支援をいただきました。児童生徒は、地域人材との交流によって、豊かな体験を得るばかりでなく、表現力やコミュニケーション能力を伸ばすことができました。年度当初予定回数275回に対して142%の実績で、十分に活用が図れました。				
成果実績	項目名(単位)	H25	H26	H27	
	活用回数(回)	220	401	391	
評価の理由	各学校からは、地域人材活用に対する期待が高く、活用回数を増やしたい意向です。平成27年度は、学校の実態や地域人材の活動状況等に応じて適宜、活用の追加承認を行い、年度当初予定回数以上に執行できました。順調に進ちよくしています。				
改善の方策等	今後も、学校評議員及び日本語指導ボランティアに対する報償金の執行状況を的確に把握し、予算を適切に振り分け、地域人材の活用回数をできるだけ増やすことによって、更に各校の特色ある教育活動の充実を図ります。				

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進  
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(7)地域に開かれた特色ある学校づくりの推進			担当課	担当課評価
細 施 策	③日本語指導ボランティアの充実			学校管理課	B
施策の内容	各学校に在籍する外国籍の児童生徒のうち、特に日本語指導が必要とされる児童生徒に対して、日本語指導ボランティアの派遣を推進し、日本語指導、学校生活への適応指導の支援など、日本語指導ボランティアの充実を図ります。				
平成27年度実績	平成27年度は、市立小中学校22校に在籍する外国籍等の児童・生徒で、日本語指導ボランティアの申請があった46人中、42人に対してボランティア21人を週1～2回派遣しました。派遣回数は延べ629回でした。				
成果実績	項目名(単位)	H25	H26	H27	
	申請受付数(人)	43	36	46	
	日本語ボランティア派遣児童生徒数(人)	30	33	42	
評価の理由	日本語指導ボランティアを派遣することによって、該当児童生徒が授業内容の理解を深め、また、周囲とのコミュニケーションをとる上で手助けとなる支援と指導を行うことができました。しかし、昨年度よりも増えたものの児童生徒が必要とする回数の派遣ができないことが課題として挙げられます。				
改善の方策等	今後、日本語指導を必要とする外国籍等の児童生徒が増え、またその母語の多様化によって求められる日本語指導ボランティアが指導することのできる言語も多様化していくことが予想されます。これらに対応できるよう効率的な派遣方法や人材確保のため、関係機関との連携を図っていきます。				

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進  
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(7) 地域に開かれた特色ある学校づくりの推進				
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
	①学校評議員制度の充実	学校管理課	B	B	
	②地域人材活用事業の充実	学校管理課	A		
③日本語指導ボランティアの充実	学校管理課	B			
学識経験者等意見	日本語指導ボランティアの派遣については、マニュアルのようなものが必要かどうか状況を見ながら事業を進めていただき、より効率的な派遣をお願いしたい。				B

【方向性】 I ー生きる力を育む学校教育の推進  
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(8)教職員の資質向上							担当課	担当課評価
細 施 策	①経験・職能別研修の充実							教育センター	A
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の経験段階に応じて職務遂行に必要な知識・技能等の習得を図る経験者研修の充実を図ります。</li> <li>・教職員の職務に応じた知識・技能等の習得を図る職能別研修の充実を図ります。</li> </ul>								
平成27年度実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経験段階に応じた研修として、初任者研修、5年経験者研修、10年経験者研修、20年経験者研修等を計画的に実施しました。</li> <li>・職能別研修として、主幹教諭、教務主任、学校事務職員、栄養教諭・学校栄養職員、初任者研修拠点校指導教員、また、学校保健・道徳教育・特別支援教育・教育相談・学校図書館教育・情報教育・進路指導キャリア教育の各担当者研修会を開催するとともに、「授業力アップ研修会」を新設し、臨時的任用教員の指導力の向上を図りました。</li> </ul>								
指標及び説明	【指標】 教職員の研修参加回数				【説明】 教職員一人が1年間に研修に参加する回数				
指標の推移	単位	現在値 (H21)	実 績 値					目標値 (H27)	
	回	4.1	H22 4.4	H23 5.1	H24 5.2	H25 4.9	H26 4.8	H27 5.5	4.4
評価の理由	<p>研修体系と研修内容の見直しを行い、研修の充実を図りました。各経験者研修の人数が増え、教職員一人ひとりが一年間に研修に参加する回数も増加しました。また、学校のニーズに応じた新たな研修を実施することができました。</p>								
改善の方策等	<p>経験・職能別研修について、学校のニーズに応じた研修を重視し、経験に応じた資質・能力の向上を図っていきます。また、「アクティブ・ラーニング」の視点に立った授業づくりに向けた研修を取り入れるなど、質の向上に努めます。</p>								

施策の柱	(8)教職員の資質向上							担当課	担当課評価
細 施 策	②管理職等研修の充実							学校管理課	B
施策の内容	<p>教育に対する理念や識見を高め、管理職としてのリーダーシップを発揮できるよう管理職等研修の充実を図ります。</p>								
平成27年度実績	<p>校長、教頭を対象とした研修会を実施しました。(校長研修会、教頭研修会、一人ひとりを大切に、信頼関係に立つ教育推進教頭研修会、生きる力をはぐくむ校種間連携教育研修会等)。また、人事評価実施要領の改正に向け、教職員人事評価制度研修会を実施しました。</p>								
成果実績	項目名(単位)	H25		H26		H27			
	研修会の実施回数(回)	19		19		23			
評価の理由	<p>研修会に加え、学校訪問や人事評価におけるヒヤリング等において、各学校の管理職が、学校経営・学校運営に関する理解を深め、地域社会から信頼される学校づくりを目指し、リーダーシップを発揮している様子を確認することができ、おおむね順調に進ちよくしています。平成27年度は、人事評価制度の改正を見据え、人事評価の評価者としてのスキルを上げるための研修を充実させました。今後は管理職候補者についても学校運営等に関する見識を高めることが課題です。</p>								
改善の方策等	<p>事例研修や演習を取り入れるなど、日々の学校運営に生かせるような研修内容の改善を図ります。また、学校の組織力をさらに向上させていくために、校長を助け補佐する教頭や主幹教諭を対象とした研修会の充実を図ります。</p>								

【方向性】 Iー生きる力を育む学校教育の推進  
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(8)教職員の資質向上			担当課	担当課評価
細 施 策	③奨励研修の充実			教育センター	B
施策の内容	教職員の資質向上を図るために、教職員自らが希望して参加できる奨励研修の充実を図ります。				
平成27年度実績	平成27年度奨励研修に参加した教職員の人数は、延べ830人でした。研修内容の充実を図るため、大学教授をはじめ各分野における第一線の講師陣を迎え、次期学習指導要領改訂を見据えた学習・指導方法等、より専門性の高い研修会を実施しました。				
成果実績	項目名(単位)	H25	H26	H27	
	講座数(回)	35	36	39	
	参加延べ人数(人)	867	815	830	
評価の理由	今日的な課題や学校のニーズに即し「総合的な学習の時間授業づくり研修会」「不登校児童生徒サポート研修会」「はつらつ先生に学ぶ授業力向上研修会」を新設しました。さらに、教職員が双方向で学び合い、高め合えるように研修内容を見直すことで研修の充実を図る等、おおむね順調に進ちよくしています。				
改善の方策等	・川越市教職員のより一層の資質・能力向上のため、研修体系の整備を図り、研修内容・研修方法の工夫改善に向けた見直しを継続的に進めます。特に「カリキュラム・マネジメント」や「アクティブ・ラーニング」の視点から研修内容・研修方法の充実を図ります。 ・積極的な研修参加に向けた啓発、情報発信を行います。				

施策の柱	(8)教職員の資質向上			担当課	担当課評価
細 施 策	④かわごえ異業種体験研修事業の推進 (平成27年度より、かわごえミドルリーダー研修の推進として実施)			学校管理課	B
施策の内容	学校経営の推進者として、教育に対する識見を高めるとともに、学校運営への積極的な参画を図り、管理職を補佐し、若い教員を牽引するミドルリーダーの育成を図ります。				
平成27年度実績	平成27年度は新規事業として35名の参加がありました。年間9回の研修をとおして、ミドルリーダーとしてベテランや若手教員に対して積極的にコミュニケーションをとることの必要性等や、学校運営に対する意識が高まったことが伺えます。				
成果実績	項目名(単位)	H25	H26	H27	
	参加教員数(人)	—	—	35	
評価の理由	平成27年度からの新規事業でしたが、参加者の学校運営への参画意識を高めるとともに、視野を広げることができました。さらに、平成27年度を受講生の中から、平成28年度中期研修を受ける者や管理職選考を受ける者もいたことから、おおむね順調に進ちよくしています。				
改善の方策等	5月下旬の開講式及び第1回研修会を皮切りに1月までに9回実施し、3年間で1サイクル、計27回の研修を計画しています。				



【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進  
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(8)教職員の資質向上			担当課	担当課評価
細 施 策	⑤大学等進学指導力向上研修の推進			学校管理課	B
施策の内容	市立高等学校の教員を大学進学予備校や民間教育機関等の研修等に派遣し、学習指導力の向上を図るとともに、その成果を校内に波及させる大学等進学指導力向上研修の推進を図ります。				
平成27年度実績	平成27年度は、予備校における教員研修プログラムに、地理歴史科と英語科の4人の教員が参加しました。その成果を教科会で報告し、授業における改善、進学補習の工夫等に共通理解を図り、組織的な取組として成果を上げました。また、11月13日には授業公開を実施しました。 大学等の主な合格状況につきましても、立教大学、明治大学、法政大学、中央大学などの難関大学に合格するなど、成果を上げております。				
成果実績	項目名(単位)	H25	H26	H27	
	延べ研修参加教員数(人)	22	25	29	
	全教員数に占める割合(%)	48.9	54.3	63.0	
評価の理由	研修に参加した教員数・割合は増加し、おおむね順調に進ちよしておりますが、大学等の進学指導に直接かかわる5教科(国・社・数・理・英)の教員が中心となって参加していることもあり、全教員数に占める割合は60%台にとどまっております。				
改善の方策等	参加教員数の増加を図るなど、今後も積極的に取り組み、教員数・割合の向上を図ります。				

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進  
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(8)教職員の資質向上				
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
	①経験・職能別研修の充実	教育センター	A	B	
	②管理職等研修の充実	学校管理課	B		
	③奨励研修の充実	教育センター	B		
	④かわごえ異業種体験研修事業の推進	学校管理課	B		
⑤大学等進学指導力向上研修の推進	学校管理課	B			
学識経験者等意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・奨励研修の充実について、はつらつ先生のような授業が上手な先生の授業を見ることで、子どもを温かく見守っていく視点や考え方、方向性などについて、たくさんの先生に学んでいただくことが全体的な教職員の資質の向上に繋がると思うので、今後とも進めていただきたい。</li> <li>・研修が増えることで先生方が疲弊してしまい、本当に直面しなければならないことに対応できなくなるようなことがないようにしていただきたい。</li> </ul>				B

【方向性】 I ー生きる力を育む学校教育の推進  
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(9)特別支援教育の充実			担当課	担当課評価
細 施 策	①就学支援委員会の充実			教育センター分室 (リベール)	B
施策の内容	小・中学校への就学予定者及び小・中学校に在籍する児童生徒のうち、教育上特別な措置又は支援を必要とする者に対して、一人ひとりのニーズに応じた教育的診断を行い、就学の適正化を図るために、専門医、学識経験者、教育関係者、行政経験者で構成する就学支援委員会の充実を推進していきます。				
平成27年度実績	就学相談が必要な幼児、児童生徒に対して、本人の観察や保護者との面談、諸検査の実施、学校・就学前施設からの聞き取り等を通して、児童生徒一人ひとりに合った学びの場の判断を行い、具体的な支援方法等について保護者に情報提供を行いました。就学支援委員会の判断と異なる就学先を希望する保護者に対しては、必要とする十分な情報提供を行い、適切な就学先を決定できるよう努めました。				
成果実績	項目名(単位)	H25	H26	H27	
	就学支援委員会実施回数(回)	44	7	8	
	臨時の就学相談回数(回)	15	61	60	
	就学相談実施人数(人)	266	310	293	
評価の理由	定期的な就学相談のほか、相談の内容や重ねて相談が必要な状況に応じて、臨時の就学相談を実施しました。児童生徒について多くの情報をもとにした適切な就学先の判断や継続的な相談が進められており、おおむね順調に進ちよくしています。				
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就学支援委員会の判断と異なる就学先を希望する保護者に対し、必要とする十分な情報提供を今後も行っていきます。</li> <li>・児童生徒の様子を適切に把握できるよう、就学前施設、小・中学校とより一層の連携を図ります。</li> </ul>				

施策の柱	(9)特別支援教育の充実			担当課	担当課評価
細 施 策	②一人ひとりのニーズに応じた指導や支援の充実			教育センター分室 (リベール)	B
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育コーディネーターを充実させるとともに、自立支援サポーターの活用を図り、通常学級における支援の推進に努めます。</li> <li>・通常の学級に在籍する軽度言語・聴覚障害や発達障害等のある子どもに対して、障害の程度に応じた指導を実施し支援の充実を図ります。</li> <li>・小・中学校に設置している特別支援学級の子ども一人ひとりの障害の特性等に配慮した指導・支援の充実を努めます。</li> </ul>				
平成27年度実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各小中学校の通常の学級に在籍する児童生徒の中で、学習障害(LD)・注意欠陥多動性障害(ADHD)・高機能自閉症等の発達障害やその傾向にある個別の支援を必要としている児童生徒数は、年々増加しており、各学校からの自立支援サポーターの申請数も増えています。</li> <li>・申請の出された学校には、各学校の実態に応じて週1～2日の範囲で、すべて自立支援サポーターを配置しました。</li> </ul>				
成果実績	項目名(単位)	H25	H26	H27	
	対応した児童数(人)	805	970	1,252	
	対応した生徒数(人)	69	89	151	
評価の理由	各小中学校から、個別の支援を必要とする多くの児童生徒が報告される中、自立支援サポーターが該当児童生徒に対し、別室で個別指導を行ったり、クラスの中に入って活動の助言、支援を行いました。対象児童生徒との信頼関係を築きながら、個別の支援を進めています。				
改善の方策等	自立支援サポーター一人ひとりが、児童生徒の多様な状況に対応できるようにするため、支援の仕方に関する研修の充実を図ります。				

【方向性】 I ー生きる力を育む学校教育の推進  
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(9)特別支援教育の充実			担当課	担当課評価
細 施 策	③特別支援教育の理解・啓発の推進			教育センター分室 (リベール)	B
施策の内容	<p>・障害のある児童生徒理解のためのパンフレットを作成し、特別支援教育への理解と啓発の推進を図ります。</p> <p>・心のバリアフリーを育む交流及び共同学習等の充実を図り、ノーマライゼーションの理念に基づく教育を推進します。</p>				
平成27年度実績	<p>・「就学相談セミナー」「発達障害セミナー」の開催により、セミナーに参加した保護者が、就学相談や教育相談を希望する等、児童生徒のよりよい成長のための支援の在り方を共に考えることができました。</p> <p>・特別支援学級の授業について関心のある保護者は多く、一人で数校の公開授業に参加する方がいる等、毎年約300人が申し込んでいます。</p>				
成果実績	項目名(単位)	H25	H26	H27	
	「就学相談セミナー」「発達障害セミナー」参加者(人)	57	47	86	
	特別支援学級授業公開参観者(人)	274	299	292	
評価の理由	<p>保護者向けセミナーや特別支援学級の授業公開日を設けることで、発達障害や特別支援教育、子供の就学について具体的に理解してもらうことができました。また、授業公開を行うことで、教員が積極的に研修を重ね、指導の工夫を図る等、資質の向上につながっています。</p>				
改善の方策等	<p>セミナーやリーフレットをさらに活用し、障害のある児童生徒の保護者だけでなく、一般市民にも理解を得られるような広報活動を積極的に行います。また、セミナーの内容について、参加する方のニーズに合わせた内容を工夫し、特別支援教育の理解を図ります。</p>				

施策の柱	(9)特別支援教育の充実			担当課	担当課評価
細 施 策	④市立特別支援学校のセンター的機能の充実			教育センター分室 (リベール)	B
施策の内容	<p>市立特別支援学校が、保護者に対する相談活動や小・中学校等へのセンター的な役割が担えるよう支援体制の整備を推進します。</p>				
平成27年度実績	<p>市立特別支援学校のセンター的機能に基づき、14件の相談、研修等に対応しました。 (内訳)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者との面接相談3件</li> <li>・特別な配慮が必要な児童生徒についての小中学校への指導援助4件</li> <li>・小中学校における配慮が必要な児童生徒への支援に関する研修会の実施3件</li> <li>・その他(介護等の体験事前指導、異校種体験教員受け入れ、巡回支援等)4件</li> </ul>				
成果実績	項目名(単位)	H25	H26	H27	
	特別支援学校のセンター的機能による対応数(件)	保護者 6 学校 8 研修 18 その他 4 合計 36	保護者 5 学校 15 研修 2 その他 11 合計 33	保護者 3 学校 4 研修 3 その他 4 合計 14	
評価の理由	<p>特別支援学校としての専門性を生かし、地域の特別支援教育の推進を支援するセンター的機能を発揮し、保護者、小・中学校への指導援助や研修会を実施しています。平成27年度から、市の巡回相談を実施しており、センター的機能の活用について調整を図っています。</p>				
改善の方策等	<p>児童生徒への個別の関わり方や保護者への具体的な支援の仕方に加え、小中学校での教職員の資質の向上や校内体制の整備に努めます。</p>				

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進

【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱		(9) 特別支援教育の充実			
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
施策評価	①就学支援委員会の充実	教育センター分室(リベール)	B	B	B
	②一人ひとりのニーズに応じた指導や支援の充実	教育センター分室(リベール)	B		
	③特別支援教育の理解・啓発の推進	教育センター分室(リベール)	B		
	④市立特別支援学校のセンター的機能の充実	教育センター分室(リベール)	B		
学識経験者等	<p>・一人ひとりのニーズに応じた指導や支援の充実については、障害者支援法の施行を注視しながら進めていただきたい。</p> <p>・通常学級の中で、発達障害のある子への対応について先生の理解があるのとならないのでは対応の仕方が全然違う部分が出てくるので、先生方が発達障害についての理解をする機会について検討していただきたい。</p> <p>・特別支援教育の理解・啓発の推進については、相互理解が大切だと思うので、保護者に対する広報活動などの情報発信の充実を図っていただきたい。</p>				B

【方向性】 Iー生きる力を育む学校教育の推進  
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(10)英語教育・外国語(英語)活動及び国際理解教育の推進	担当課	担当課評価	
細 施 策	①英語指導助手(AET)の配置事業の充実	教育センター	B	
施策の内容	<p>・国際化の進展に対応し、広い視野と国際感覚を持った児童生徒を育成するため、小・中・市立高等学校及び特別支援学校に配置されている英語指導助手の充実・推進を図ります。</p> <p>・小学校での学級担任教員との英語活動や中・高等学校での英語担当教員との共同授業において、英語指導助手をより効果的に活用できる配置を進めていきます。</p>			
平成27年度実績	<p>派遣契約の英語指導助手を1名増員し、現地採用4人、KET2人、派遣契約17人、合計23人の英語指導助手(AET)を配置しました。</p> <p>〈訪問実績〉          英語指導助手(AET)23人          小学校 963日 中学校 1,999日 市立川越高等学校 117日 合計3,079日</p>			
成果実績	項目名(単位)	H25	H26	H27
	配置人数(人)	21	22	23
	1校あたりの年間訪問日数(日)	小27.3 中88.2	小30.93 中82.59	小30.00 中90.86
評価の理由	<p>派遣契約の英語指導助手を1名増員し、教員と英語指導助手の共同授業において英語指導助手を効果的に活用できる配置をし、おおむね順調に進ちよくしています。</p>			
改善の方策等	<p>質の高い英語指導助手(AET)の人数を段階的に増やしていくとともに、小学校英語科導入に向け、小学校に積極的に英語指導助手を配置していくように努めます。</p>			

施策の柱	(10)英語教育・外国語(英語)活動及び国際理解教育の推進	担当課	担当課評価	
細 施 策	②小学校外国語活動の推進	教育センター	B	
施策の内容	<p>小学校5・6年生での外国語活動の時間に、英語ノートや川越市小学校外国語活動研究委員会が作成した資料を活用し、担任教師と英語指導助手が協力して、英語に親しむことのできる授業の充実・推進を図ります。</p>			
平成27年度実績	<p>・川越市小学校外国語活動研究委員会において、担任が授業ですぐに活用できるよう、文部科学省著作物「Hi friends!」の指導案例の英語版やCLASSROOM ENGLISH集を作成し、市内各学校に配布し活用を図りました。</p> <p>・小学校教員の英語力の向上を図るため、小学校外国語活動指導力向上研修会を2回実施し、市内全小学校の教員が参加しました。</p>			
成果実績	項目名(単位)	H25	H26	H27
	AETの共同授業による1日平均授業時数(時間)	4.40	4.63	4.57
	小学校第5・6学年1学級当たりの英語指導助手(AET)の年間訪問回数(日)	4.85	5.56	5.48
評価の理由	<p>AETの一日の平均授業数は前年度とほぼ同じであり、積極的に活用が図られている状況にあります。小学校5・6年生だけでなく、他学年や特別支援学級、休み時間においてもAETが有効活用されており、おおむね順調に進ちよくしています。</p>			
改善の方策等	<p>計画的に英語指導助手の訪問回数や一日の授業数を増やすとともに、小学校教員に対する研修の充実を図り、担任教師と英語指導助手が共同して、児童が英語に親しむことのできる授業の充実・推進を図ります。</p>			

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進  
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(10)英語教育・外国語(英語)活動及び国際理解教育の推進			担当課	担当課評価
細 施 策	③中学校英語教育の充実			教育センター	B
施策の内容	英語指導助手(AET)の効果的な活用、教員の指導力の向上を図り、「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の4技能のバランスを取りながら、体験的・実践的な英語教育の充実を推進していきます。				
平成27年度実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校では英語担当教諭と英語指導助手(AET)との共同授業を通して、言語の使用場面や言語の働きに配慮したコミュニケーション活動を充実させ、生徒が主体的に取り組む授業づくりを推進しました。</li> <li>・英語科指導力向上研修会等を実施するとともに、英語指導助手活用実践事例集を作成し、具体的な指導方法や模擬授業を実施する研修を行い教員の指導力向上を図りました。</li> </ul>				
成果実績	項目名(単位)	H25	H26	H27	
	AETの共同授業による1日平均授業時数(時間)	3.78	3.77	3.72	
評価の理由	英語指導助手の効果的な活用とともに、研修内容の充実や事例集の作成及び活用が進められており、おおむね順調に進ちよくしています。				
改善の方策等	生徒の「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の4技能の基礎を養うため、英語指導助手の積極的な活用を促し、さらに教員の指導力向上を図る研修の充実に努めます。				

施策の柱	(10)英語教育・外国語(英語)活動及び国際理解教育の推進			担当課	担当課評価
細 施 策	④国際理解教育の推進			教育センター	B
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国籍の児童生徒のうち、特に日本語指導が必要とされる児童生徒に対して、日本語指導ボランティアの派遣を推進していきます。(再掲)</li> <li>・国際理解教育の充実・推進を図ります。</li> </ul>				
平成27年度実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語指導を必要とする外国籍の児童生徒に629回の日本語指導を実施しました。</li> <li>・市立小・中・高・特別支援学校を対象とした国際理解教育研修会を実施しました。</li> <li>・市立小学校を2つのブロックに分け、ブロックごとに1校が外国語活動の授業公開を行い、研究協議を行いました。</li> </ul>				
成果実績	項目名(単位)	H25	H26	H27	
	国際理解教育研修会実施数(回)	3	3	3	
	参加延べ人数(人)	110	105	112	
評価の理由	全市立学校の教職員が国際理解教育に関する研修会に参加し、国際理解教育に対する必要性を感じ取ったり指導力の向上を図ったりすることができ、おおむね順調に進ちよくしています。				
改善の方策等	国際理解推進のために外国語活動だけでなく外国のさまざまな文化、あわせて我が国の伝統文化や歴史などに関しても研修の充実を図り、国際理解教育の推進に努めていきます。				

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進

【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱		(10) 英語教育・外国語（英語）活動及び国際理解教育の推進			
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
施策評価	①英語指導助手(AET)の配置事業の充実	教育センター	B	B	B
	②小学校外国語活動の推進	教育センター	B		
	③中学校英語教育の充実	教育センター	B		
	④国際理解教育の推進	教育センター	B		
学識経験者等	<p>小学校外国語活動の推進については、教科書を使って英語能力を高めていくことは必要であるが、自ら表現しようとする気持ちや自分から伝えようとする意志を大切に、子どもたちがより楽しく外国語活動できるように進めていただきたい。</p>				

【方向性】 I ー生きる力を育む学校教育の推進  
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(11)情報教育の推進							担当課	担当課評価
細 施策	①ICT教育の推進							教育センター	A
施策の内容	児童生徒がコンピュータやインターネット等のICTを活用し、情報の収集・活用・発信という主体的な学習ができるよう推進します。								
平成27年度実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校・中学校の授業におけるICT(情報通信技術)活用回数は、平成26年度は1学級あたり小学校で51.1回、中学校で75.9回だったのに対し、平成27年度は小学校で67.8回、中学校で84.0回と大きく増加しています。</li> <li>・デジタル教科書の活用回数は、平成26年度の1校あたり330.3回に対して平成27年度は383.4回となり、こちらも大幅に増加しています。</li> </ul>								
指標及び説明	【指標】 授業におけるICT(情報通信技術)活用授業回数				【説明】 市内全小学校のうち1学級当たり1年間にICT(情報通信技術)を活用した授業の実施回数				
指標の推移	単位	現在値(H21)	実績値					目標値(H27)	
			H22	H23	H24	H25	H26	H27	
	回	28	32.2	36.8	34.1	43.2	51.1	67.8	35
評価の理由	デジタル教科書活用を含め、ICT活用回数は目標値を大きく上回っています。さらに児童生徒に対する情報の収集・活用・発信についての授業も各学校で進められており、順調に進ちよくしています。								
改善の方策等	教職員一人ひとりの能力や適性に合った研修会を引き続き計画的に実施することによって、ICT教育の効果や必要感を周知し、授業でのICT活用を推進していきます。								

施策の柱	(11)情報教育の推進							担当課	担当課評価
細 施策	②情報モラル教育の推進							教育センター	A
施策の内容	児童生徒の情報の安全管理や情報モラル等の育成を一層推進するために、情報教育推進委員会、管理職や情報化推進リーダー等を対象とした情報モラル教育の研修を体系的に推進します。								
平成27年度実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報モラル教育に関しては、小学校では主に総合的な学習の時間で、中学校では、技術家庭科(情報分野)の年間指導計画に全校位置付け実施されています。</li> <li>・平成27年度小・中学校の情報モラルに関する授業の実施回数は、1校あたり21.9回となっています。</li> </ul>								
指標及び説明	【指標】 情報モラルに関する指導ができる教員の割合				【説明】 市内全中学校の教員のうち情報モラルに関する指導ができる教員の割合				
指標の推移	単位	現在値(H21)	実績値					目標値(H27)	
			H22	H23	H24	H25	H26	H27	
	%/校	66	75	76	77	80	90	87	80
評価の理由	情報モラルに関する指導ができる教員の割合が目標値を上回っていると同時に、情報モラルに関する授業も全校で実施されている状況で、順調に進ちよくしています。								
改善の方策等	情報モラル教育研修の内容を充実させ、教職員の情報モラルに対する指導力の向上に努めます。また、保護者を対象とした研修会においても情報モラルについて扱い、情報の安全管理や情報モラルについて一層啓発してまいります。								



【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進  
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(11)情報教育の推進			担当課	担当課評価
細 施 策	③コンピュータ施設・設備の充実と活用			教育センター	B
施策の内容	小・中学校に設置されている教育用コンピュータの活用を図るため電子黒板やプロジェクター等の周辺機器を更に充実し、コンピュータ施設・設備の充実と活用を図ります。				
平成27年度実績	・平成27年度は霞ヶ関北小学校の校内LAN環境を整備するとともに、小学校では校務用コンピュータを430台、中学校においては280台の導入・入れ替えをしました。 ・学校に設置されている教育用コンピュータの活用を図るため、教職員に対してデジタル教科書や電子黒板の活用に関する研修会を実施し、教職員の指導力の向上を図りました。				
成果実績	項目名(単位)	H25	H26	H27	
	校務にICTを活用できる小学校教員の割合(%)	97.5	97.4	98.8	
	校務にICTを活用できる中学校教員の割合(%)	95.7	95.9	95.3	
評価の理由	校内LAN環境の整備やコンピュータの導入・入れ替えなど計画的に推進することができました。さらに、小中学校に設置しているコンピュータを校務に活用できる教職員が高い水準で確保されており、おおむね順調に進ちよしています。				
改善の方策等	平成28年度は、校内LAN敷設工事を小学校2校、中学校12校で実施し、合わせて680台のコンピュータ(タブレット含む)を導入予定です。あわせて、小・中学校の校務用コンピュータを合計630台入れ替え予定です。平成29年度から平成31年度までに、計画的に全小・中学校に校内LAN敷設工事とともにコンピュータの導入も実施し、設備の充実を図っていきます。				

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進  
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(11)情報教育の推進				
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
	①ICT教育の推進	教育センター	A	A	
	②情報モラル教育の推進	教育センター	A		
③コンピュータ施設・設備の充実と活用	教育センター	B			
学識経験者等意見	情報モラル教育の推進については、SNSでの問題など様々な問題が生じているので、さらに進めていっていただきたい。				

【方向性】 Iー生きる力を育む学校教育の推進  
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(12)読書活動の推進			担当課	担当課評価
細 施策	①読書活動啓発推進事業			教育指導課	A
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学生は「小江戸読書マラソン」の取組、中学生は「小江戸中学生読書手帳」の活用を通して、児童生徒の読書活動を推進します。</li> <li>家庭には読書活動啓発リーフレットを保護者に配布し、家庭における読書活動の啓発に努めます。</li> </ul>				
平成27年度実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学生には「小江戸読書マラソン」を配布し、意欲的な読書活動が進められるようにしました。</li> <li>中学生には「小江戸中学生読書手帳」を配布し、生徒の興味・関心を踏まえ、取り上げる本を見直すなど内容を改善しました。</li> <li>読書活動啓発リーフレットについて、内容を見直し、改善を図りました。</li> </ul>				
成果実績	項目名(単位)	H25	H26	H27	
	小学校における年間平均読書冊数(冊)	49.3	54.9	57.9	
	中学生読書手帳に記入された平均読書数(冊)	11.3	12.1	12.1	
評価の理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校では読書マラソンカードの積極的な活動により、平均読書冊数は向上しており、順調に進ちよくしています。</li> <li>中学校では読書手帳について全校読書や授業での活用を通して、読書冊数が増加傾向にあります。</li> </ul>				
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> <li>読書マラソンカードを活用した読書啓発の実践を進めることで、今後の読書冊数の増加が期待できます。</li> <li>読書手帳に掲載されている作品について授業を通じて幅広く活用することで、今後の読書冊数の増加が期待できます。</li> </ul>				

施策の柱	(12)読書活動の推進			担当課	担当課評価			
細 施策	②図書館司書による読書活動の推進			中央図書館	A			
施策の内容	図書や図書館への興味・関心を持ってもらうため、図書館司書の学校訪問等を通じ、読書活動の推進に努めます。							
平成27年度実績	全市立小学校3年生の各学級を訪問・招待し、本の紹介を行いました。							
指標及び説明	【指標】 図書館司書による学校訪問等の回数 (校数)		【説明】 市立小学校3年生の各学級を対象に本の紹介などを行う					
指標の推移	単位	現在値 (H21)	実績値					目標値 (H27)
			H22	H23	H24	H25	H26	
	回	20	32	32	32	32	32	32
校	20	32	32	32	32	32	32	
評価の理由	図書館司書などによる全市立小学校訪問や学級招待を行ったことで、児童の読書活動が推進されており、順調に進ちよくしています。							
改善の方策等	引き続き全市立小学校3年生の各学級を訪問・招待し、本の紹介を行います。							

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進  
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(12)読書活動の推進							担当課	担当課評価
細 施 策	③図書館から学校への団体貸出の推進							中央図書館	A
施策の内容	児童生徒たちの読書要求に応えるため、市立図書館から学校への団体貸出を推進します。								
平成27年度実績	児童・生徒たちへの「テーマ」に沿った図書を市内小学校25校に延べ114回、7,540冊、中学校9校に延べ12回、892冊、市立特別支援学校に延べ2回、62冊貸出しました。なお、今年度から配送サービスを実施し、利用改善を図りました。								
指標及び説明	【指標】 学校への団体貸出数				【説明】 市内小中高校の各学級を対象に100冊を上限に1ヶ月間貸出する冊数				
指標の推移	単位	現在値 (H21)	実績値					目標値 (H27)	
	冊	5,725	H22 6,886	H23 5,158	H24 5,059	H25 6,440	H26 7,833	H27 8,494	8,000
評価の理由	小学校への貸出冊数は7,540で平成26年度(7,242冊)に比べて約4%増でした。中学校への貸出冊数は892冊で平成26年度(591冊)と比べて約51%増でした。市立特別支援学校への貸出冊数は平成26年度はありませんでしたが、平成27年度は62冊でした。このため全体の合計としては平成26年度と比べて約8%増で、団体貸出数の実績値が目標値を上回っており、順調に進ちよくしています。								
改善の方策等	小中学校の先生たちに事業のPRをします。								

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進  
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(12)読書活動の推進				
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
	①読書活動啓発推進事業	教育指導課	A	A	
	②図書館司書による読書活動の推進	中央図書館	A		
③図書館から学校への団体貸出の推進	中央図書館	A			
学識経験者等意見	・小江戸読書マラソンは、気軽に読書活動を進められ、子どもたちの読書意欲が高まる非常に効果がある取組であるため、今後も続けていただきたい。 ・図書館司書による読書指導が行われているが、それだけではなく、ボランティアにより読書活動が推進されているところもあり、今後も進めていただきたい。				A

【方向性】 Iー生きる力を育む学校教育の推進  
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(13)健康の保持増進と安全・体力向上の推進			担当課	担当課評価
細 施 策	①学校保健活動の推進			教育指導課	A
施策の内容	学校・家庭・地域との連携を図りながら、健康診断や学校環境衛生活動等の保健管理の徹底に努めるとともに、歯・口の健康づくりや薬物乱用防止教育、性に関する教育等の保健教育や学校保健活動を推進します。				
平成27年度実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校における定期健康診断等を実施しました。</li> <li>・学校環境衛生検査として飲料水検査、プール水検査、学校環境衛生検査、ホルムアルデヒド及び揮発性物質検査、砂場の細菌検査、ダニ・アレルゲン検査を実施しました。問題があった場合は、指導により改善を図りました。</li> <li>・歯・口の健康づくりや性に関する教育等は、学習指導要領に基づき適切に実施しました。</li> <li>・薬物乱用防止教育研修会を開催するとともに、全校で薬物乱用防止教室を実施し、健全な心身の育成に向けた取組を行いました。</li> <li>・養護教諭研修会で食物アレルギー・アナフィラキシー発生時の緊急対応について各学校の取組事例の発表や情報交換を行ない、更なる共通理解を図りました。</li> </ul>				
成果実績	項目名(単位)	H25	H26	H27	
	薬物乱用防止教室の実施状況	全校実施 (小32 中22 高1 特1)	全校実施 (小32 中22 高1 特1)	全校実施 (小32 中22 高1 特1)	
評価の理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予定されていたすべての検査を適切に実施し、問題のあった場合は改善を指導し、再検査で状況を確認しています。</li> <li>・全校で児童生徒の発達段階に応じた薬物乱用防止の指導を実施するなど順調に進ちよくしています。</li> </ul>				
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏季における教室内の室温調査等の環境衛生検査を実施し、衛生的で安全な学習環境の把握に努めます。</li> <li>・薬物乱用防止教育を更に充実させ、児童生徒の健全な心身の育成に取り組みます。</li> <li>・食物アレルギー・アナフィラキシーに対して適切な対応がとれるよう更なる定着を図ります。</li> </ul>				

施策の柱	(13)健康の保持増進と安全・体力向上の推進			担当課	担当課評価
細 施 策	②安全・安心の推進			教育指導課	B
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒、地域の実態に応じた安全教育・安全指導を推進します。</li> <li>・登下校等における児童生徒の安全確保のための通学路の安全点検、スクールガード・リーダーの配置、地域ボランティアによる防犯パトロール等、地域及び関係機関等との連携を図り、安全・安心の取組を推進します。</li> </ul>				
平成27年度実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スクールガード・リーダー養成講習会を実施しました。</li> <li>・各学校からの通学路改善要望をとりまとめ、防犯・交通安全課に提出しました。</li> <li>・青色回転灯パトロールカーによる市内の巡回を36回実施しました。</li> </ul>				
成果実績	項目名(単位)	H25	H26	H27	
	スクールガード・リーダー養成講習会参加者数(人)	78	91	101	
評価の理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・32名にスクールガード・リーダーを依頼し、全小学校に配置しました。</li> <li>・スクールガード・リーダー養成講習会の実施時期と内容を改善し、より多くの方が参加できるようにするとともに、効果的な講習ができるようにしました。</li> <li>・関係課との連携により通学路の整備が進められ、おおむね順調に進ちよくしています。</li> </ul>				
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の交通事故の原因は、歩行時の飛び出しや自転車による運転の問題が多く、重大な事故につながらないよう、交通安全の指導を継続的に実施します。</li> <li>・学校からの要望書を受け、関係課と連携することで、危険箇所の把握及び改善をより速やかに進めてまいります。</li> </ul>				

【方向性】 I 一生きる力を育む学校教育の推進  
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(13)健康の保持増進と安全・体力向上の推進		担当課	担当課評価				
細 施 策	<b>③体力向上の推進</b>		教育指導課	<b>B</b>				
施策の内容	「川越市児童生徒体力向上推進委員会」の取組や、近隣の大学との連携による「トップアスリートふれあい事業」の実施を通して、児童生徒の体力向上の推進に取り組みます。							
平成27年度実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「川越市児童生徒体力向上推進委員会」を開催し、体力向上広報紙「じゃんぷ」「川越市小・中学校新体力テスト一覧」、研究紀要「体力向上をめざして」を発行しました。</li> <li>・「トップアスリートふれあい事業」により、東洋大学と連携し、駅伝部のコーチ・学生を市立小学校6校に派遣し、2,727人の児童が参加しました。</li> <li>・市立全小中学校で新体力テストを実施し、結果をまとめ、体力向上の推進を図りました。</li> </ul>							
指標及び説明	【指標】 新体力テスト総合評価(5段階)で3段階以上の割合	【説明】 市立全中学校生徒の新体力テスト総合評価基準表の上位3段階生徒の割合						
指標の推移	単位	現在値(H21)	実績値					目標値(H27)
	%	82.6	H22	H23	H24	H25	H26	H27
評価の理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「トップアスリートふれあい事業」で、第一線で活躍する大学生の走りを体感することにより、児童の走る意欲が高められました。</li> <li>・市内全中学校生徒の新体力テスト総合評価規準表の上位3段階生徒の割合は、平成21年度を基準とすると、その後増加傾向にあり、おおむね順調に進ちよくしています。</li> </ul>							
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学校で実施した新体力テストの分析により、「握力」「立ち幅とび」「ボール投げ」を体力重点課題とし、全体的な体力向上に向け、学校生活や授業の改善に取り組みます。</li> <li>・川越市児童生徒体力向上推進委員会により、小中連携した授業研究を通して、効果的な指導方法の研究を推進します。</li> </ul>							

【方向性】 I 一生きる力を育む学校教育の推進  
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	<b>(13)健康の保持増進と安全・体力向上の推進</b>				
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
	①学校保健活動の推進	教育指導課	A	<b>B</b>	
	②安全・安心の推進	教育指導課	B		
③体力向上の推進	教育指導課	B			
学識経験者等	トップアスリートふれあい事業については、子どもたちの意欲が高まり、記録が伸びていくこともあるので、各校2年か3年に1回は回ってもらえるように事業の拡充を図っていただきたい。				

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進  
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(14)学校の評価充実			担当課	担当課評価
細 施 策	①人事評価の充実			学校管理課	B
施策の内容	教職員人事評価システムを有効に活用し、教職員の資質・能力の向上を図るとともに、校長を中心とする学校組織の活性化や人事評価の充実を目指します。				
平成27年度実績	各学校の目標に応じ、年度当初に個々が目標と方策を立てました。面談を重ね、進行状況を確認し、達成状況や職務遂行の過程で発揮された能力、執務姿勢等に加え、他の職員とのコミュニケーション及び協働に関する行動(チームワーク行動)の観点から総合的に評価していくことで、教職員の資質・能力の向上が図れました。				
成果実績	項目名(単位)	H25	H26	H27	
	校長に対する年間面談回数(回)	167	168	168	
	教職員に対する年間面談回数(回)	4,584	4,671	4,659	
評価の理由	「埼玉県市町村立学校職員の人事評価に関する規則」及び「埼玉県市町村立学校職員の人事評価実施要領」に基づき、各学校で設定した目指す学校像と重点目標を踏まえて目標と方策を策定しました。目標の達成状況に基づいた自己評価、評価者評価を通し、教職員の資質・能力の向上に活用され、おおむね順調に進ちよくしています。				
改善の方策等	年度当初に個々の目標・方策・困難度が適切に設定され、また、評価者によって評価の差が生じないよう、評価者研修を充実させ、教職員人事評価制度への理解を深められるよう努めます。				

施策の柱	(14)学校の評価充実			担当課	担当課評価
細 施 策	②学校評価の充実			学校管理課	B
施策の内容	PDCAサイクルによる学校の自己評価、外部アンケート等の実施、学校関係者評価などを通して、教育活動等の成果を検証し、学校運営の改善と充実を目指します。				
平成27年度実績	各学校が自己評価のために、学校関係評価委員による授業参観、学校観察等を行うとともに、教員による自己評価・外部アンケートを実施しました。自己評価により、学校の課題や改善点を整理し学校運営を改善することができました。				
成果実績	項目名(単位)	H25	H26	H27	
	「自己評価」におけるA評価の割合(%)	32.9	34.9	35.4	
	「学校関係者評価」におけるA評価の割合(%)	55	53	58	
評価の理由	各学校が、学校関係者に学校自己評価の評価理由及び改善策を提示し、年度末に学校関係者評価を実施し意見を伺っており、PDCAサイクルによる学校運営がおおむね順調に進ちよくしています。				
改善の方策等	学校評価評価項目を、学校の実態に合わせたものにするために、関係者との連携を更に進め、より良い学校評価を実現できるよう努めていきます。				

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進

【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱		(14) 学校の評価充実			
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
施策評価	①人事評価の充実	学校管理課	B	B	B
	②学校評価の充実	学校管理課	B		
学識経験者等 意見	特になし				

- 【方向性】 1 一生きる力を育む学校教育の推進  
 【施策】 2 安全・安心で質の高い教育を支える教育環境の整備・充実

施策の柱	(1)学校施設の整備・充実							担当課	担当課評価
細 施策	①学校施設の耐震化の推進							教育財務課	A
施策の内容	学校施設は、児童生徒が1日の大半を過ごす学習・生活の場であるとともに、災害発生時には地域住民の避難場所となるなど重要な役割を担っていることから、学校施設の耐震化に向け耐震補強工事を計画的に取り組みます。								
平成27年度実績	平成24年度に全学校施設の耐震化が完了しました。								
指標及び説明	【指標】 学校施設の耐震化の推進				【説明】 市内のすべての公立小中学校の耐震化の割合				
指標の推移	単位	現在値 (H21)	実 績 値					目標値 (H27)	
			H22	H23	H24	H25	H26	H27	
	%	63	76	93	100	100	100	100	100
評価の理由	平成24年度を完了年度とした「川越市小中学校耐震化推進計画」に基づき、全学校施設の耐震化が完了しました。								
改善の方策等	平成24年度に全学校施設の耐震化が完了しました。								

施策の柱	(1)学校施設の整備・充実							担当課	担当課評価
細 施策	②大規模改造工事等学校施設の整備の推進							教育財務課	A
施策の内容	学校施設設備の老朽化した部分等の緊急性や必要性などを検討し、建物の耐久性の向上を図るため大規模改造工事等計画的な施設・設備の整備を進めていきます。								
平成27年度実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大規模改造工事を実施(小学校1校、中学校1校)</li> <li>・トイレ改修工事を実施(小学校3校、中学校2校)</li> </ul>								
指標及び説明	【指標】 大規模改造工事の推進				【説明】 市内のすべての公立小中学校の大規模改造工事の実施割合				
指標の推移	単位	現在値 (H21)	実 績 値					目標値 (H27)	
			H22	H23	H24	H25	H26	H27	
	%	44	52	54	55	57	59	61	59
評価の理由	川越市教育振興基本計画の最終年度である平成27年度末の目標値である59%を達成しました。								
改善の方策等	学校施設の耐久性の向上、施設の機能改善、教育環境の改善を図るため、「川越市小中学校大規模改造計画」に基づき、大規模改造工事を進めてまいります。								



【方向性】 1 ー生きる力を育む学校教育の推進

【施策】 2 安全・安心で質の高い教育を支える教育環境の整備・充実

施策の柱		(1) 学校施設の整備・充実			
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
施策評価	①学校施設の耐震化の推進	教育財務課	A	A	A
	②大規模改造工事等学校施設の整備の推進	教育財務課	A		
学識経験者 意見等	学校のトイレ改修工事については、学校によってはとても古くなっているところがあり、臭い等の問題もあるので、改修工事を進めていただきたい。				

- 【方向性】 1 ー生きる力を育む学校教育の推進  
 【施策】 2 安全・安心で質の高い教育を支える教育環境の整備・充実

施策の柱	(2)小・中学校の適正配置と通学区域の弾力化			担当課	担当課評価
細 施 策	①小・中学校の通学区域・規模等の検討			学校管理課	B
施策の内容	今後の川越市立小中学校の在り方検討委員会において、「通学区域に関すること」、「余裕教室の活用に関すること」、「今後の望ましい学校数(学校の統廃合や存続等)に関すること」、「その他」の視点で検討し、将来にわたり適正な小中学校の通学区域・規模等を調査研究していきます。				
平成27年度実績	平成27年3月に作成した「川越市立小・中学校適正規模・適正配置基本方針の策定に向けて」を土台に、同年7月の政策企画課の通知「第四次川越市総合計画における将来人口推計について」なども参考にしつつ、前年度に引き続き、市立小・中学校適正規模・適正配置基本方針の策定のための検討を行いました。				
成果実績	項目名(単位)	H25	H26	H27	
	小中学校の在り方検討委員会等開催回数(回)	3	3	2	
	検討内容	児童数の増加が見込まれる学校への対応策について	市立小・中学校適正規模・適正配置基本方針等	市立小・中学校適正規模・適正配置基本方針等	
評価の理由	市立小・中学校適正規模・適正配置基本方針の策定のためには、市長部局の関係各課を交えての検討が必要です。平成27年9月に当初案が示された「川越市公共施設等総合管理計画」等との整合も考慮する必要があることなどにより、当該各課を交えて検討するには至りませんでした。なお、おおむね順調に進捗しております。				
改善の方策等	平成27年1月に文部科学省が発出した「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置に関する手引」等を参考にしつつ、「川越市公共施設等総合管理計画」との整合も考慮しながら、「川越市立小・中学校適正規模・適正配置基本方針の策定に向けて」に、小中一貫化等必要な記述を加筆、修正するなどの形で、本市としての小・中学校適正規模・適正配置基本方針を策定するため、市長部局の関係各課の協力を求め、検討を進めてまいります。				

- 【方向性】 1 ー生きる力を育む学校教育の推進  
 【施策】 2 安全・安心で質の高い教育を支える教育環境の整備・充実

施策の柱	(2)小・中学校の適正配置と通学区域の弾力化				
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
	①小・中学校の通学区域・規模等の検討	学校管理課	B	B	
学識経験者等 意見	特になし				B

- 【方向性】 1 一生きる力を育む学校教育の推進  
 【施策】 2 安全・安心で質の高い教育を支える教育環境の整備・充実

施策の柱	(3)学校図書館の充実			担当課	担当課評価
細 施 策	①司書教諭・図書整理員の配置			教育指導課	A
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・司書教諭・図書整理員の配置により、学校図書館経営の充実を図り、学校図書館を活用した学習指導を一層推進します。</li> <li>・司書教諭や図書整理員の研修等を通して読書好きの児童生徒を増やし、子どもの読書活動を活発にするために、司書教諭や図書整理員の研修等を通して、創意工夫をこらした学校図書館の中で、子どもの読書活動が充実するように努めます。</li> </ul>				
平成27年度実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・司書教諭、図書整理員とも全校に配置しました。(図書整理員は30人を複数校配置で対応)</li> <li>・子ども読書活動推進研修会を実施し、司書教諭を中心に児童生徒の読書活動推進のための研修を実施しました。</li> <li>・図書整理員を対象に、魅力ある学校図書館づくりを進めるための研修会を年4回実施し、これからの学校図書館担当職員に求められる役割や職務について周知し、学校図書館の充実を図りました。</li> </ul>				
成果実績	項目名(単位)	H25	H26	H27	
	学校図書館の貸出数(小学校)(冊)	431,081	459,709	485,062	
	学校図書館の貸出数(中学校)(冊)	45,873	48,842	48,360	
評価の理由	各種研修会を通して司書教諭・図書整理員の職務充実が図られたことで、学校図書館の整備と活用が促進されています。本の貸出冊数は小学校では継続的に増加しており、順調に進捗しています。				
改善の方策等	年度初めのオリエンテーションやブックトークの実施や「全校一斉朝読書」など読書活動の時間を設定、教科の指導等による学校図書館の利用促進を通して、今後も児童・生徒が本に触れる機会を増やします。				

施策の柱	(3)学校図書館の充実			担当課	担当課評価
細 施 策	②蔵書の充実			教育指導課	B
施策の内容	学校教育の中で、学校図書館の活用の充実が図れるよう、子どもの要望に応じた図書や豊かな心を育てるための図書を計画的に購入し、蔵書の充実を努めます。				
平成27年度実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学校に適切に予算を配当し、計画的に図書を購入しました。</li> <li>・調べ学習や発展的な学習に活用できる本や児童生徒が興味・関心を寄せている本を計画的に購入し、学校図書館の環境整備を図りました。</li> </ul>				
成果実績	項目名(単位)	H25	H26	H27	
	図書標準の達成率(小学校)(%)	80.6	83.3	86.9	
	図書標準の達成率(中学校)(%)	97.0	100.6	103.0	
評価の理由	図書の計画的な購入により、図書標準の達成率は年々向上しており、おおむね順調に進捗しています。				
改善の方策等	計画的な図書の購入と適切な蔵書の入替えにより、蔵書の量的確保とともに質的向上が図れるよう整備を進めます。				

【方向性】 1 ー生きる力を育む学校教育の推進

【施策】 2 安全・安心で質の高い教育を支える教育環境の整備・充実

施策の柱		(3) 学校図書館の充実			
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
施策評価	①司書教諭・図書整理員の配置	教育指導課	A	A	A
	②蔵書の充実	教育指導課	B		
学識経験者 意見等	蔵書の充実については、子どもたちが身近に手に取れる学級文庫についても、学校図書館とのバランスを考慮しながら充実を図っていただきたい。				

【方向性】 1 一生きる力を育む学校教育の推進  
 【施策】 2 安全・安心で質の高い教育を支える教育環境の整備・充実

施策の柱	(4)学校給食の充実			担当課	担当課評価
細 施 策	①食育の推進			教育指導課	B
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒が生涯健康で充実した生活を送るために、学校給食を通じた食に関する指導に加え、教科等と連携した食に関する指導の推進に努めます。</li> <li>・効果的な食に関する指導を推進するため、栄養教諭制度等の指導体制の整備を推進するとともに、学校、家庭、地域への啓発、情報提供など、連携した取組を目指します。</li> </ul>				
平成27年度実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会科や家庭科、総合的な学習の時間等において、食に関する指導を全小中学校で実施する中で食事の重要性や食文化について指導しました。</li> <li>・「朝食バランスアップハンドブック」を活用した、より良い食習慣の意識を高める授業研究会を開催し、市内の小中学校の教員による成果と課題についての協議の場を設けました。</li> <li>・朝食の必要性やバランスについて考える実践例が掲載された広報紙「じゃんぷ」を全家庭に配布し、食育について啓発しました。</li> </ul>				
成果実績	項目名(単位)	H25	H26	H27	
	必ず朝食をとる割合(小5)(%)	90.3	88.8	92.7	
	必ず朝食をとる割合(中2)(%)	85.5	80.6	85.6	
評価の理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・給食の時間や家庭科等の授業で、バランスの良い食事や地産地消の考え方を踏まえた学習が推進されています。</li> <li>・各学校において食育における年間指導計画を踏まえた指導を行っており、おおむね順調に進ちよくしています。</li> </ul>				
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・埼玉県の「早寝、早起き、朝ご飯」の運動を推進します。</li> <li>・食育についての研修を引き続き計画的に実施します。</li> </ul>				

施策の柱	(4)学校給食の充実			担当課	担当課評価				
細 施 策	②給食内容の充実			学校給食課	A				
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全・安心でおいしい給食を提供するため、栄養的にバランスの取れた給食を提供し、児童生徒の健康の増進や体力の向上を目指します。</li> <li>・学校給食で使用する食材の安全確保に努めるとともに、地場産物の使用拡大に努めます。</li> </ul>								
平成27年度実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校給食における摂取基準に基づいた学校給食を小学校188回、中学校187回実施しました。</li> <li>・農産物等の産地証明、残留農薬証明書等を求め、給食材料の安全性を確保しました。</li> <li>・地産地消の考えから主食米については、川越産米約240t、野菜については61t(17品目)使用しました。</li> <li>・食材について、毎日3品目程度と給食1食分の放射性物質検査を実施しました。</li> </ul>								
指標及び説明	【指標】 学校給食における地場産物の使用拡大			【説明】 学校給食への川越産野菜使用割合					
指標の推移	単位	現在値 (H21)	実 績 値					目標値 (H27)	
			H22	H23	H24	H25	H26		H27
	%	19.3	8.8	19.1	19.6	21.4	8.1	22.9	20.0
評価の理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地場産野菜の使用については、天候等により左右されます。平成27年度は平成26年度より安定的に使用できたため、目標値を達成することができ順調に進ちよくしています。</li> <li>・食材の安全性確保のため、引き続き放射性物質の検査を実施していきます。</li> </ul>								
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も地場産農産物の利用を増やしていくため、地場産物を生かした献立や、収穫期に合わせた献立等、地場産物を積極的に取り入れていきます。</li> <li>・食材の安全性確保のため、引き続き放射性物質の検査を実施していきます。</li> </ul>								

- 【方向性】 1 一生きる力を育む学校教育の推進  
 【施策】 2 安全・安心で質の高い教育を支える教育環境の整備・充実

施策の柱	(4)学校給食の充実			担当課	担当課評価
細 施 策	③学校給食施設の整備			学校給食課	A
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・藤間学校給食センターと吉田学校給食センターは老朽化が進んでいるため、施設の更新を計画的に推進していきます。</li> <li>・学校給食の安全性の向上を図るため、調理場のドライ化を推進します。</li> </ul>				
平成27年度実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(仮称)川越市新学校給食センター整備運営事業について、PFI方式による事業契約を締結しました。</li> <li>・学校給食センターの設備改修のため、工事の設計・積算の業務委託を行いました。</li> </ul>				
成果実績	項目名(単位)	H25	H26	H27	
	改修工事	男子休憩室冷暖房設備改修工事(今成)、焼物機等改修工事(今成)	事務室等空調設備工事(今成)、プレハブ冷蔵庫改修工事(今成)	排水圧送管布設工事設計業務委託(菅間)排水貯留槽等設置工事設計業務委託(菅間)	
評価の理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の更新である(仮称)川越市新学校給食センター整備運営事業契約が完了し、計画どおり順調に進ちよくしています。</li> <li>・改修工事は計画どおり進んでいます。</li> </ul>				
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の更新については、事業契約の締結が完了したことから、工事監理業務を適切に進めていきます。</li> <li>・既存施設の改修工事及び修繕については、計画的に実施します。</li> </ul>				

- 【方向性】 1 一生きる力を育む学校教育の推進  
 【施策】 2 安全・安心で質の高い教育を支える教育環境の整備・充実

施策の柱	(4)学校給食の充実				
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
	①食育の推進	教育指導課	細施策	施策の柱	
	②給食内容の充実	学校給食課	B	A	
	③学校給食施設の整備	学校給食課	A		
		A			
学識経験者等意見	きちんとした食事をとることは大切だということを早い段階から知ってもらえるよう、食育を進めていただきたい。				A

- 【方向性】 1 ー生きる力を育む学校教育の推進  
 【施策】 2 安全・安心で質の高い教育を支える教育環境の整備・充実

施策の柱	(5)市立川越高等学校の改革・充実			担当課	担当課評価
細 施 策	①市立川越高等学校将来構想の検討と推進			市立川越高等学校	B
施策の内容	第二次川越市立川越高等学校将来構想懇話会を設置し、「学科編制の在り方」「学校・学級規模の在り方」「教員の研修の在り方」「中高連携や中高一貫教育の在り方」について検討し、市民の負託に応える魅力ある市立高等学校づくりを推進します。				
平成27年度実績	各学科とも35人少人数学級編制、地域特別選抜を実施しました。教員の研修では、「大学等進学指導力向上研修」を活用し、大学進学予備校に教員を4名派遣し、学習指導力の向上を図りました。中高連携では、3中学校との校種間連携教育の委嘱を受け、城南中2年生全員の体験授業の実施や、本校からの出前授業、中学校保護者への説明会、校内見学を推進しました。 また、川越市立川越高等学校教育審議会を設置し、市立川越高等学校の将来構想について諮問し、答申をいただきました。				
成果実績	項目名(単位)	H25	H26	H27	
	1年生の市内生比率(%)	35.1	32.4	32.3	
		(平成26年4月入学生)	(平成27年4月入学生)	(平成28年4月入学生)	
評価の理由	成果実績は昨年度とほぼ同様の割合でした。生徒募集人数に対する志願者倍率は各学科1.3～1.5倍と高倍率を保っています。中高連携では、本校の良さを知って志望する生徒の増加とともに、部活や教科で連携する教員が増えています。				
改善の方策等	平成27年度に開催された川越市立川越高等学校教育審議会の答申を踏まえ、時代の要請と市民の期待に応える市立川越高等学校づくりに資するため、継続的に将来構想について検討し、平成28年度内に学校としてのビジョンを固めていきます。				

- 【方向性】 1 ー生きる力を育む学校教育の推進  
 【施策】 2 安全・安心で質の高い教育を支える教育環境の整備・充実

施策の柱	(5)市立川越高等学校の改革・充実				
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
	①市立川越高等学校将来構想の検討と推進	市立川越高等学校	B	B	
学識経験者等意見	特になし				

- 【方向性】 1 ー生きる力を育む学校教育の推進  
 【施策】 2 安全・安心で質の高い教育を支える教育環境の整備・充実

施策の柱	(6)教育センターの充実			担当課	担当課評価
細 施 策	①教育センターの整備・開放の充実			教育センター	A
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育センターの機能を充実させるため、教職員研修体制の整備を図るとともに、市民も活用できる施設となるよう推進します。</li> <li>・1階施設や体育館及び運動場は、市民に対して積極的に開放していき、研修施設としての設備は計画的に整備し、教育センター機能の充実を図っていきます。</li> </ul>				
平成27年度実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成27年度は、2階の排煙設備設置及び内装制限に係る工事を行いました。</li> <li>・施設の市民への無料貸し出しについて広く周知され、施設利用の登録団体が26年度より7団体増えました。</li> <li>・1階施設は市民の使用を優先し、主に昼間に活発に利用されています。また、体育館は、教職員研修と重ならない場合において、9時15分から20時45分まで市民に貸し出しを行うとともに、運動場は地域のサッカー団体に土・日曜日に貸し出しを行いました。</li> <li>・休日や夜間の貸し出しについては、管理業務を川越市シルバー人材センターに委託し、市民が施設を安全に利活用できる環境づくりを行いました。</li> </ul>				
成果実績	項目名(単位)	H25	H26	H27	
	1階施設利用者数(人)	2,669	7,317	10,434	
	体育館及びグラウンドの利用回数と人数(回/人)	606/20,433	755/22,186	667/19,380	
評価の理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動場及び体育館の貸し出しは、年間を通して平日、土日、祝休日ともに利用希望者が増加しています。</li> <li>・各種団体が利用している学校施設が利用できない期間(改修工事や卒業式等の学校行事)は特に、多くの団体が利用するため、調整をしながら貸し出しを行っています。</li> </ul>				
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育館を利用する市民の要望に応え、雨漏りしていた体育館の屋根について28年度中に工事を行い、利用しやすい施設としての環境を整備していきます。</li> </ul>				

施策の柱	(6)教育センターの充実			担当課	担当課評価
細 施 策	②家庭・地域との連携研修の充実			教育センター	B
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>不登校や情報モラル教育の諸問題など、今日的な教育課題解決のために、学校や家庭・地域との相互理解を目的とした家庭・地域と連携した研修の充実を図ります。</li> </ul>				
平成27年度実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>「家庭・地域連携 保護者とともに考える研修会」において「情報モラル教育の進め方」の研修を行い、保護者・教職員に携帯電話(スマートフォン)等の使用に起因する子どもへの危険性や対処方法、与える際のルールづくり等について考えを深めることができました。</li> </ul>				
成果実績	項目名(単位)	H25	H26	H27	
	研修会の開催(回)	2	1	1	
	参加者数(人)	123	103	107	
評価の理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校と家庭が課題解決に向け、共通理解を図ることを目的として、研修会を開催しました。参加者からは、「保護者がスマートフォンの仕組みを理解し、子どもが携帯を持つ年頃になったとき、スマートフォン、インターネットの危険性を必ず伝えられるようにしていきたい。」といった感想が多くあげられ、おおむね順調に進ちよくしています。</li> </ul>				
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修会の周知方法の工夫を図り、保護者の参加者の増加に努めます。</li> <li>・講演会では、情報モラル教育に関わる内容等、子どもの生活状況に密接した課題を扱い、実生活に生かせる必要感ある研修内容になるよう努めます。</li> </ul>				



【方向性】 1 ー生きる力を育む学校教育の推進

【施策】 2 安全・安心で質の高い教育を支える教育環境の整備・充実

施策の柱		(6) 教育センターの充実			
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
施策評価	①教育センターの整備・開放の充実	教育センター	A	A	A
	②家庭・地域との連携研修の充実	教育センター	B		
学識経験者等 学意見	特になし				